

平成 29(2017)年度
東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム
「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム」
コース生 (秋編入) 募集・募集要項

1. プログラムの概要

(1) 本プログラムの教育研究上の目的

本プログラムは、修士課程から博士後期課程までの一貫した教育を行い、各研究科・専攻における教育を通じて「**高度な専門的研究能力**」を育成するとともに、本プログラム固有の教育カリキュラムを通じて、高齢社会問題に関する「**俯瞰力**」と、現実に社会を変える「**実践力**」を育成し、もって、日本や世界各地の実践の現場において、**活力ある超高齢社会**を実現する取り組みを主導する**世界レベルの博士人材**を育成することを目的としています。

(2) 養成する人材像

活力ある超高齢社会を共創する能力、すなわち、高齢社会問題に関する俯瞰的総合的知識と、特定分野における専門的研究能力に加え、分野横断的専門家チームを率いて課題解決に取り組む能力を備えた、博士レベルの人材。

(3) 本プログラムの履修要件と学位

本プログラムを履修する学生(以下、コース生と呼ぶ)は、所属専攻の履修要件を満たすと同時に、本プログラムの提供する高齢社会総合研究学に関する共通科目について20単位(講義10単位・演習10単位)以上、ただし、4年制博士課程に所属するコース生は18単位(講義10単位・演習8単位)以上を取得し、所属専攻における博士論文の審査に合格し、本プログラム固有の博士論文の審査に合格した場合、「高齢社会総合研究プログラム修了証」が授与されるとともに、所属専攻が授ける博士の学位記に「高齢社会総合研究プログラム修了」という認定が付記されます。なお、原則として、博士前期課程(修士課程)において(4年制博士課程においては2年次年度末までに)12単位(講義8単位・演習4単位)以上を取得する必要があります。

2. 申請資格

本コース生に応募できる者は、2017年10月に下記の専攻の修士課程1年次・2年次または博士課程1年次に在籍する者で、高齢社会の諸問題の解決に資する研究により博士の学位を取得しようとする者に限られます。

工学系研究科: 社会基盤学専攻、建築学専攻、都市工学専攻、機械工学専攻、
精密工学専攻、化学システム工学専攻、先端学際工学専攻

人文社会系研究科: 社会文化研究専攻

教育学研究科: 総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻

法学政治学研究科: 総合法政専攻

総合文化研究科: 広域科学専攻

農学生命科学研究科: 生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物学専攻、
農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、獣医学専攻

医学系研究科: 社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻、国際保健学専攻、健康科学・看護学専攻

新領域創成科学研究科: 先端エネルギー工学専攻、メディカル情報生命専攻、人間環境学専攻、
社会文化環境学専攻、国際協力学専攻

情報理工学系研究科: 知能機械情報学専攻

3. 選抜方法

コース生の選抜は、申請書類(申請者情報、研究計画、参加動機と将来構想に関するエッセイ、指導教員等の意見書)、面接(注1)を総合的に判断して行います。

なお、今回の応募により選抜されたコース生のうち修士課程または医学系等の4年生博士課程に入学する者については、平成30(2018)年3月に資格試験(QE-1)を行い、2年次以降、引き続きプログラム履修が許可される学生を選抜します。3年制の博士課程(博士後期課程)に入学する者、すなわち本コースの博士後期課程への編入者については、平成30(2018)年3月に博士論文着手資格審査(QE-3)を行い、本コースの4年次への進級が許可される学生を選抜します。

(注1) 面接は9月20日(水)～21日(木)に行う予定です。面接の日時は応募者の都合に合わせて設定します。

4. 募集人員

今回の募集人員は、修士課程・博士課程ともに若干名。

5. 申請手続

(1) 申請方法

- ア. 申請方法 申請書類を下記(ウ)宛に郵送または直接持参すること。
- イ. 受付期間 平成29(2017)年9月4日(月)から9月19日(火) 15:00まで(必着)。
- ウ. 受付窓口 東京都文京区本郷7丁目3番1号・工学部8号館7階713
東京大学高齢社会総合研究機構
リーディングプログラム GLAFS 担当
問い合わせ先 info@glafs.u-tokyo.ac.jp

(2) 申請書類等

- ア. 履修申請書 所定の用紙に所要事項を記入したもの。
- イ. 教員の意見書 所定の用紙に指導教員または専攻のプログラム担当教員が記載し、厳封したもの。

6. 選抜結果発表及び採用手続

(1) 選抜結果の発表は、平成29(2017)年9月22日(金)15:00に高齢社会総合研究機構掲示板に掲示するとともに、申請者全員に対し、選抜の結果をメールで連絡します。

(2) 採用手続書類は、平成29(2017)年9月22日(金)15:00から、高齢社会総合研究機構で配付を開始します。採用内定者は、採用手続要領により、平成29(2017)年9月29日(金)15:00までに必要な採用手続(採用手続書類の提出)を行ってください。所定の期間内に採用手続を行わない場合は、採用内定を辞退したものと取り扱います。

7. 奨励金の支給

QE-1に合格し博士課程進学的意思を明確に表明した博士前期課程(修士課程)2年次のコース生には月額6万円～15万円の学習奨励金、博士後期課程のコース生には月額15万円～20万円の学習奨励金を、**学業成績等**に応じ、支給します。

なお、学習奨励金の支給を希望するコース生は、原則として、日本学術振興会特別研究員(DC1・DC2)に応募していただきます。

なお、奨励金を受給した場合は、日本学生支援機構奨学金等の受給やアルバイトはできません。ただし、週5時間を限度として、TA・これに準ずる研究補助者としての業務や、医師資格等を持つコース生が臨床実務に従事することは認められます。また、奨励金を受給した場合は、雑所得として所得税の確定申告が必要となります。年間所得に応じ、健康保険等の扶養家族から外れることがあるので留意してください。本プログラムを履修する場合でも、奨励金の受給を辞退することができます。また、本人の意思により奨励金の減額を申し出ることができます。

学習奨励金の支給額については、本プログラムの予算削減等の、やむをえない事情により、上記の額より減額することがあります。

*本プログラム終了後、すなわち2020年4月以降の学習奨励金の支給についても、現在とほぼ同様の条件で継続する予定です。

8. 注意事項

- (1) 受付期間内に必要書類が完備しない申請は、受理しない。
- (2) 申請手続完了後は、どのような事情があっても、書類の変更は認めない。
- (3) 事情により、申請手続等について変更することがある。変更があった場合は、改めて通知する。
- (4) 申請に当たって知り得た氏名、住所その他の個人情報については、①履修者選抜(申請処理、選抜実施)、②採用者発表、③採用手続業務を行うために利用する。また、同個人情報は、採用者のみ①学務関係(学籍、修学等)、②学生支援関係(就職支援、授業料免除申請等)に関する業務を行うために利用する。
- (5) 申請書における記載内容について虚偽の記載をした者は、採用後においても遡ってコース生であることを取り消すことがある。

9. 説明会

- (1) 募集に関する説明会。
説明は随時行います。希望者はメールでお問い合わせ下さい。
問い合わせ先 info@glafs.u-tokyo.ac.jp

10. その他

2017年度冬学期オリエンテーションを下記日程で行う予定です。
※合格者は出席すること。

2017年度冬学期オリエンテーション 10月7日(土) 午後

平成29(2017)年8月28日

平成 29 年度 東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム
活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム
 Graduate Program in Gerontology: Global Leadership initiative for an Age-Friendly Society (GLAFS)
コース生 履修申請書

1. 申請者情報等

(フリガナ) 氏 名		男 女
国 籍		
生 年 月 日		

現 住 所	〒 電話: E-mail:			
学 歴 (留学も含む)	平成 年 月	大学	学部	学科卒
	平成 年 月	大学院	研究科	専攻 修士課程 修了
職 歴 (期間、所属、職名、主な職務、インターンシップ等を含む)	平成 年 月～平成 年 月			
博士課程在学中の在職(予定)もしあれば				
平成 29 年 10 月時点 の所属専攻名	東京大学大学院	研究科	専攻 修士課程・博士課程	年次 (入学年月:平成 年 月)
学 籍 番 号 (東京大学在学者のみ)				

平成29年10月時点 の指導教員	専攻名		氏名	
本コースにおける 副指導教員の希望	※個人名、又はどのような分野・人かを幅広く記述も可 ① ② ③			
他のリーディング大学院 にも申請している場合 は、申請先を右欄に記入				
研 究 課 題				

2. これからの研究計画 (図表を含めることも可。10ポイント以上の文字で記入。様式の改変・追加は不可(以下同様))

以下の点についての記述をできるだけ含め簡潔に記述すること。

- ① これまでの研究背景とその問題点について参考文献をあげて記述してください。
- ② 研究目的、研究方法、研究内容について記述してください。
- ③ 本研究の特色、着眼点、独創的な点、本研究が完成した場合のインパクトなどについて記述してください。
- ④ どのような計画で、何をどこまで明らかにしようとするのか、具体的に書いてください。

申請者氏名 _____

(これからの研究計画の続き)

【年次計画】 (※博士後期課程編入志望者のみ)

(1年目)

(2年目)

(3年目以降)

3. 研究と高齢社会の諸問題の解決との関連

自分の研究が、高齢社会の課題解決にどのように関連するのかについて記述してください。

申請者氏名 _____

4. 本プログラムに参加する動機と将来のキャリアについての構想

本リーディング大学院プログラムを志望する理由、博士課程修了後のキャリア（産、学、官など）の構想について記述してください。（活力ある超高齢社会の実現に向けて、将来のキャリアの中でどのように貢献したいと考えているのかということについても言及してください。）また、自己の長所や特に重要と思われる事項（研究発表、特に優れた学業成績、受賞歴、留学経験、特色ある学外活動）などの自己評価についても記述してください。

申請者氏名 _____

5. 研究活動の状況

(1) 現在までの研究活動について記述してください。卒業研究やそれに準ずるもの（特別実験、理論演習など）を含めても構いません。

以下の項目については、申請者が中心的な役割を果たしたもののみ、項目に区分して記載してください。その際、通し番号を付すこととし、該当がない項目は「なし」と記載してください。申請者にアンダーラインを付してください。

(2) 国内学会・シンポジウム・国際会議等における発表（口頭・ポスターの別、査読の有無を区分して記載してください。）

本人が発表したもののみ、著者（申請者を含む全員の氏名を、発表時と同一の順番で記載してください。ただし、著者名が多数におよぶ場合は、他〇〇名として一部を省略可とします。）、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。（発表予定のものは除く。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載しても構いません。その場合は、それを証明できるものを添付してください。）

(3) 学術雑誌等に発表した論文、著書（印刷済または採録決定済のものに限ります。また、査読の有無を区分して記載してください。）

著者（申請者を含む全員の氏名を、論文と同一の順番で記載してください。ただし、著者名が多数に及ぶ場合は、他〇〇名として一部を省略可とします。）

題名、掲載誌名、発行所、巻号、頁、発行年をこの順で記入してください。採録決定済のものについては、それを証明できるものを添付してください。

(4) その他（受賞歴等）

申請者氏名 _____

様式 2

リーディング大学院申請者に関する意見書

このページは指導教員が作成し、封筒に入れて封をしてください（表に応募者の名前と所属専攻を明記）。

① 申請者氏名	
② 研究課題（申請書の「研究課題」を記入）	
③ 申請者に対する評価	
④ 総合評価 申請者の研究能力を総合的に評価し、該当する項目に○印をつけるとともに、推薦の順位を記してください。	(1) これまで指導した学生の中で a. 上位 10%程度 b. 上位 25%程度 c. 上位 50%程度 d. 上位 50%以下 (2) 推薦する学生____名中____番目

評価者の所属機関：東京大学 _____ 研究科・研究所
職： _____ 氏名： _____ (印)